

Si-R370 V33.02 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	IPsec/IKE常時接続	IPsec/IKEトンネルあて先の経路情報が存在している状態であれば、IPsec/IKE接続を行います。起動時にIPsec/IKEが接続可能状態であればすぐにIKEネゴシエーションを開始し、またなんらかの原因でIPsec/IKE SAが解放された場合にも、未接続状態の検出により迅速に再接続が行えます。
2	トンネル接続の拡張	IPv6 over IPv4、Ethernet over IP接続に加えて、以下のトンネル接続をサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> •IPv6 over IPv6 •IPv4 over IPv6 •IPv4 over IPv4
3	SIP-SIPゲートウェイ機能	SIPのIP電話システムをキャリアが提供するIP電話サービス網に接続可能にします。 <ul style="list-style-type: none"> •内線側:IP Pathfinder およびCLシリーズで構成されたIP 電話サービス •外線側:NTT東日本・西日本 ひかり電話ビジネスタイプ

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V30.00～	動的VPNクライアントにおいて、INVITEの認証に失敗するとシステムダウンする場合があります。
2	V30.00～	動的VPNで接続と切断を繰り返す環境において、本装置からSIPのDeclineを通知してVPN相手先と接続不能になる場合があります。
3	V30.00～	Si-Rシリーズルータが動的VPNサーバとして動作する構成にて、回線上で動的VPN接続用メッセージのロストが頻発するとシステムダウンすることがある。
4	V30.00～	Si-Rシリーズルータが動的VPNサーバとして動作する構成にて、VPN接続時のINVITE要求に対するエラーレスポンスを受信するとレスポンスを送信したクライアントに対し不要なメッセージを送信する場合があります。
5	V32.00～	Si-Rシリーズルータが動的VPNサーバとして動作する構成にて、RFC3261の規約に反した新規INVITEを受信するとシステムダウンする場合があります。
6	V32.00～	IKEネゴシエーション中にIKEセッション監視がダウンすると、システムダウンすることがある。
7	V33.00～	接続先情報のIPsec/IKE(Aggressive Mode)設定操作において、誤った設定(IKEのproposal設定を複数行い、それぞれのproposal設定でPFSグループが異なる)をすると接続先情報が有効となってしまふ。但し、必要な情報が作成できないため通信は行えない。Aggressive Modeの場合、複数のproposalで同一のPFSグループを設定しなければならない。
8	V30.00～	テンプレート情報(AAA)のIPsec/IKE(Aggressive Mode)設定操作において、誤った設定(IKEのproposal設定を複数行い、それぞれのproposal設定でPFSグループが異なる)をするとテンプレート情報が有効となってしまふ。但し、必要な情報が作成できないため通信は行えない。Aggressive Modeの場合、複数のproposalで同一のPFSグループを設定しなければならない。
9	V30.00～	IPsec/IKE 複数セッション接続構成で、接続先セッション監視を利用し接続中に、すべてのIPsec/IKEセッションを閉塞(offline remote)するとシステムダウンする場合があります。セッション数が多い場合に発生する可能性が高い。
10	V30.00～	動的VPN接続処理中および接続状態の動的VPNセッションと同一の拠点に対してINVITE要求(開始要求)を発行してしまう。
11	V33.00～	動的VPN設定で定義変更を行いcommitすると、VPNの相手先と接続できない場合があります。
12	V31.00～	装置起動(装置電源off/on、resetまたはcommitコマンド実行)後、REGISTERメッセージが発行されず、動的VPN接続ができない場合があります。
13	V21.00～	基本NATで使用するテーブルがタイムアウトした直後の最初の変換対象パケットがロストする。二番目以降のパケットは正常にNAT変換が行われ通過する。
14	V30.00～	SIP-NATで複数ポート番号取得を連続して行なうと、10001-10002、10004-10005、10007-10008の様にすき間が空いてしまふ。なお、運用上は問題ない。
15	V30.00～	SIP-NATで、ウェルknownポート番号扱いのプライベートポート番号でNAT変換テーブルの範囲指定取得を行なうと、ポート番号範囲指定のNAT変換テーブルのグローバルポート番号の後端が0になる。通話自体はプライベートからグローバルへのRTP、RTCPパケットによって動的に作成された通常のNAT変換テーブルによって可能であるが、NAT変換テーブル作成前に到達したグローバルからプライベートのパケットが破棄される。
16	V21.00～	OSPFの運用ガイドラインを越えたルータ・ネットワークが存在する環境において、システムダウンする場合があります。なお、Si-Rシリーズルータを使ったOSPFネットワーク構築時のガイドラインでの同一エリア内最大ルータ数は50台である。
17	V21.00～	DR(Designated Router: 指定ルータ)として動作しているルータのrouter idやaddressを変更してOSPFネットワークに再参加させると、経路の消失と復旧が繰り返されたり、経路計算が正しく行われない場合があります。
18	V21.00～	装置内のFlashメモリへのアクセス中にSNMPマネージャからプライベートMIB取得を行うと、Flashメモリへのアクセス終了までMIB取得処理が待たされることがある。装置内のFlashメモリへのアクセスは、構成定義情報の退避、ファームウェア更新や装置内エラーログ情報の表示操作などを契機に実行される。
19	V21.00～	標準MIBvrrpOperationsグループのvrrpOperVirtualRouterUpTime(オブジェクトID:1.3.6.1.2.1.68.1.3.1.13)に対するMIB取得値が不適切な値となる。vrrpOperVirtualRouterUpTimeは仮想ルータの動作開始時間を示すMIBである。
20	V21.00～	telnet接続でログインし、複数行のキー入力データを処理するコマンドを実行しているときにコピー&ペーストで複数行のキー入力データを入力すると、データの順序が入れ替わることがある。
21	V21.00～	シスログサーバを設定し、シスログの重複メッセージを抑制する設定(syslog dupcut yes)を行った場合、メモリの解放漏れが発生することがある。
22	V21.00～	スタティックマルチキャスト関連設定の動的反映繰り返しでシステムダウンすることがある。
23	V21.00～	スタティックマルチキャスト関連設定の動的反映で経路がすべて登録できない場合があります。
24	V33.00～	show tech-support に show arpauthコマンドを追加する。